

20190731 メールニュース1

○全学説明会をうけて

7月30日に全学説明会「国立大学改革と本学の現状について」が行われました。大学が厳しい環境にあることは十分理解します。しかし、そうであるからこそ教職員が夢と希望をもって働き続けられるよう、労使ともに考えていく必要があります。

説明会をうけて、さまざまな疑問・不安がわいたのではないのでしょうか。

- ・「正しい評価」というが、そんなことがそもそも可能なのか？
- ・評価されやすい・されにくい研究領域が最初から固定しているのでは？
- ・評価されやすい教育研究に教員が誘導され、むしろ多様性が損なわれないか？
- ・評価基準は適正なのか。S評価の点数に達する人はほとんどいないのでは？
- ・昇任の条件に、新年俸制への切り替えを強制されるのでは？
- ・本学の教職員数が多すぎるとの分析があったが、問題は人数の多さなのか。組織運営の非効率や大学規模に合わない業務量がないかをまず問うべきでは？

組合は、本学の改革が構成員（ひいては大学）に不利益をもたらさないかを注視し、必要に応じて大学と交渉を行う予定です。みなさまからのご意見を参考にしたいと思います。1行でもかまいません。ご意見を組合(shimane-uu@soc.shimane-u.ac.jp)までお寄せください。

夏休み期間に講師をお呼びして勉強会をすることも予定しています。詳細は後日お知らせします。ぜひご参加ください。

○新執行部から：今回は新三役からのごあいさつです。

委員長：栢野 彰秀

この度、中央執行委員長に選出されました教育学部栢野(かやの)彰秀です。よろしくお願いいたします。

新年俸制や新教員評価制度、雇い止め問題、そして9000万円を端に発した研究者型裁量労働制適用者にも出勤・退勤の時刻を打刻させようとする問題等、労働条件に関する課題が山積の中で中執が新メンバーとなりました。これらの諸課題が少しでも解決に向かうよう、中執全員で取り組んでいく所存です。一年間、組合員の皆様方の数のご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

副委員長：青木 美穂

島根大に赴任し10年目になり、迷い無く「島根県民」と言えるようになりました。

中執の役員は初めてですが、色々な場所で聞かれる声を大学執行部へ届けられるよう力を尽くしたいと思います。

どうぞ宜しくお願いします。

書記長：小林 亜希子

男は女が奴隷であることを望まない。「いそいそとした奴隷」であることを望む。ゆえに女性のごく若い時期からそうなるべく教育される……とジョン・スチュアート・ミルが喝破したのは1869年です。先人たちはそんな「社会の常識」と戦って今の女性の地位を勝ち取りました。それから150年、私たちは「いそいそとした奴隷」になっていませんか？大学の望む研究教育にとられて自分の理想を置き去りにしていませんか？忖度ファーストの企画ばかりを作っていませんか？逆らっても仕方がないとあきらめたら何も変わりません。組合は教職員の理想を語る場であり、それを実現するべく努力しつづける組織でありたいと思っています。勉強不足ではありますが、お力添えをよろしくお願いいたします。